

わが家くらいは、(燃やしても)いいだろうと思わず、必ず資源回収に出してください。トレイもペットボトルも大切な資源です。



環境に関する意見が多くありました
心ない行為
私たちの町でもクリーン作戦が雨の中行われました。私たちは、山中に投げ捨てられていた空き缶やペットボトルなどみんまできれいにしたのもつかの間、なんと翌朝わが家の道路際に飲み残しの入ったペットボトル3本が捨ててありました。それも茂みの中ではなく道路のそばに堂々と置いてありました。何かがつかりです。(三和町 Kさん)

発泡スチロールの焼却について
以前、我が家の近くで山のようなペットボトルを焼却している人がいました。ペットボトルは、スーパーマーケットでも、市でもリサイクルということで回収していますよね。いったいどういう神経をしているのでしょうか。それも、小学生がいる家庭です。別の家では、夕方になるとほとんど毎日ごみを燃やしています。何を燃やしているのかわかりませんが、煙が臭く窓を開けることができません。ごみの焼却問題は行政の介入なしでは解決できません。一刻も早い対応を期待します。
(古井町 Oさん)

男女共同参加について
8月に行いましたアンケートにつきまして、多くの市民のみなさんから協力いただきありがとうございました。20歳以上の男女対象者3,000人のうち約1,200人から回答があり、現在アンケート結果の内容を分析しているところです。
みなさんからのご意見は、男女共同参画基本計画策定に向けての貴重な資料になります。なお、アンケートの分析結果につきましては広報でお知らせするとともに、男女共同参画社会の実現に向けてみなさんと議論していきたいと思っております。
ちなみに、男女共同参画とは、これからの社会は男性も女性も一人ひとりの個性や能力が尊重され、それぞれの個性や能力が発揮できるような社会をめざすもので、平成11年「男女共同参画基本法」が制定されました。
(総合政策課)

あなたの身近な話題やうれしかったこと、腹がたったこと、「広報みのかも」を読んだ感想や、特集として取り上げてほしい内容など、気軽に電話やはがき、ファックスまたは電子メールでお寄せください。(広報誌上は匿名で掲載しますが、住所・氏名・電話番号は必ず、お知らせください) あなたの声をお待ちしています。
〒505-8606 美濃加茂市企画部総合政策課広報係
でんわ 0574 2111(内線239)
FAX 0574 1290
Eメール kouhou@city.minokamo.gifu.jp



痴呆は予防できる!?

第三十話
寝室と居間を行ったり来たりしている濃代さんを見て、夫の美男さんが声をかけました。
美男「なにをそうも行ったり来たりしてるんや」
濃代「なにしてるって、なんでもいいやないの!」
と、強い口調で返事をしかけた濃代さん、ハツとして言い直しました。
濃代「実は縫い物をしようと思ったんやけど、めがねがみつからんもんで探しまわってるんやわ」
美男「なんや、めがねならほれそこにあるやないか」
濃代「あれま、こんなところにも最近忘れっぽくていかんわ。いつつも捜し物をし

とるような気がするわ。ボケてまうんやないかって心配になってまう。今も『なにや』とるんや』って言われて思わず怒った言いかたしてまつた。ボケる前は、取り繕うために喧嘩つ早くなるって、この間の痴呆予防の講演会で言つとつたもんね。気をつけなかんわ。」
美男「お互い、いい年になつてきたでボケンようにしたいもんやな。」
講演会のお話は、「明るく頭を使ってあきらめない!」をモットーに、積極的に脳を使い痴呆をくい止めようというものでした。
予防としては、
1 生活の中で自分の役割や生きがいを持ち、仲間とのふれあいを大切に。
2 頭や体を使うことを心掛ける(日記を書く・散歩をする・トランプ・五目並べ・パズルなど)
また、家族の心構えとしては、
1 間違えたことについて、怒ったり、馬鹿にしたりしない。(本人の自尊心を傷つけない)
2 家族のだんらんを心掛け孤独にさせない。
3 身の回りのこと、家事などを一緒に行う。
とのことでした。
あなたも自分自身の生活や家族のあり方について、一度振り返ってみてはいかがでしょう。

だんらん

母親として
このころ、母親の育児不安や育児放棄(ネグレクト)ということが新聞記事やテレビの話題となり、目につくようになってきていますね。
どんな母親でも、子どもが生まれ育てていく過程で、不安に思ったり、自信をなくしたり、放り出したくなったりしたこと何回かあったと思います。しかし、子どもの笑顔、夫の支え、周囲の人々の助言や手助けにより、窮地を乗り越え、母親としての自信や知恵を身につけてきているのではないのでしょうか。
育児不安を持ち続けたり、育児放棄をしたりしがちな母親は自分自身を否定的な状況に追い込んでしまっている傾向があります。育児に関して、絶対や完璧という考え方は不必要。いい子に育てようとして母親の思いを押しつけすぎるとしてよくない子どもの成長にとってよくないものです。

考え方に思いこみがあったり精神的にゆとりがなかったりすると、自分の気持ちをコントロールすることができにくくなり、現実の状況が見えにくくなり、許容範囲が狭くなってしまいがちです。がんばりすぎたり不安になりすぎたりしている場合は、「グッド・イナフ」(ありのままに充分)という考え方を取り入れてみてください。
また、育児放棄しがちな場合は、自分の思うようにならなくて現実からの逃避をしようという傾向があります。逃げていくは、今の状況はよくなつていきません。できることからやってみることをお勧めします。
困ったときには、身近な人に自分から話してみてください。聞いてもらえそうな人がいない場合は、電話相談を利用してみるのも一つの解決策になります。
子ども家庭支援センター
年中無休・24時間対応
058・296・2172
*他にも相談場所はいろいろあります。詳しくは「家庭教育ノート」「家庭教育手帳」の情報編をご活用ください。

親しみやすいコミュニティバスへ
コミュニティバスを見ました。停留所の赤いマークもすてきですね。赤い色のバスにも暖かさを感じました。市民の足として利用者がどんどん増えるといいですね。一度乗ってみたいと思いました。
(新池町 Hさん)

男女共同参加がアンケート
という形でやっと始動しました。アンケート結果も含め、今後、コーナーを設けるなどして意識を高めるための記事をお願いします。
(太田町 Hさん)